

	会の在り方	関係機関との連携	人材確保・育成	移行支援	その他
連絡先・課外・実施したプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・意見や声が上までスムーズに届くようにしてほしい、その結果についてみんなに分かるように。 ・作っただけにならないように、困った時に相談できるように。 ・どこかの事業所が困っているのを協力して支える体制の整備 ・負担の多いやり方は避けてほしい（例：事例発表の準備等） ・連絡会を区域分けした小連絡会があるとよい。（意見の抽出のしやすさ、開催のしやすさ、横のつながりの構築のしやすさ） ・管理者だけでなく現場職員も集まれる場が欲しい。 ・各事業所の特色を報告する場というよりは、こどもたちのために何をすべきかを話し合える会に。 ・課題に気づけるよう取り組みが必要「地域とは？地域資源とは？」勉強会が必要。 ・質の向上に向けて、全員でやっていきたい。安定したサービス提供に向けて、どの事業所でも支援がきちんと受けられるように。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生との合同研修会開催：相互理解、障害特性理解等 ・学校との連携がうまくいった事例の共有 ・コーディネーター、支援級担任と話したい、見学したい。 ・お互いが無理のないよう、連携のハードルが下げられる工夫 ○他事業所 <ul style="list-style-type: none"> ・事業所間連携のいいやり方を知りたい。 ・困りごとについての意見交換、共有、事例検討会したい ・事業所の繋がりが持てる環境整備（互いの強みを知る、地域、送迎範囲の明確化） ・不登校や強度行動障害のお子さんの受け入れをしている事業所についての情報を共有したい ○行政 <ul style="list-style-type: none"> ・行政説明等をしてほしい、質問をできる場 ・法改正等に関する解釈の共有をする（ネット上で、各事業所から出た質問に市が答えたものを随時更新することで解釈のずれがないようにする） ・年間スケジュールリスト・チェックリストがほしい ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・放デイ以外の福祉サービスを知る ・相談員も一緒に親睦会 ・児相、児童クラブとの連携のための取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ○確保 <ul style="list-style-type: none"> ・仕組み作り。行政に動いてほしい、実習の開示や斡旋など。 ○育成 <ul style="list-style-type: none"> ・役職や年数等に合わせた合同研修 ・育成や定着がうまく言った事例の共有 ・支援計画、自己評価等書類作成のための研修 ・現場の生の声（お子さん、保護者、指導員など）を拾い研修を実施 ・セルフプランも多く児発管の役割を考えると、相談援助技術の向上が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○成人期へ向けて <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージの移行時の連携（児発→放デイ→就労等）のための情報共有 ・就労支援事業所の見学や説明会など ・事例検討：自立につながる支援ができていくか ○地域移行 <ul style="list-style-type: none"> ・一般市民との交流できる場の開催をして、放デイについて地域の方に知ってもらう ・児童クラブとの連携が取れるように 	<ul style="list-style-type: none"> ○適正利用 <ul style="list-style-type: none"> ・相談員を増やしてほしい。 ・本当に必要な支給量を出すための取り組み。 ・保護者に放デイ本来の意味をわかってもらうには？（塾ではない） ・放デイの合同説明会の実施 ・市内の事業所の情報整理（場所や送迎範囲等を明確にして地図にする） ○家族支援 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者も参加できる研修 ・保護者交流の場 ・ペアトレの取り組みを知りたい ○不登校児の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児の受け入れの状況等について知りたい。 ○送迎に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・特にみなら特別支援学校への送迎負担を軽減する ・学校で少し待たせてもらえる等何か対応ができれば・・・
事業所の課題・困りごと	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ忙しい。 ・担当者会議だけでは解決できないことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育 <ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携。認識にズレがある。福祉、教育とで考えが違う。 ・忙しい時間帯や時期が違う。 ・保育所等訪問支援を学校から拒否される。 ・学校、家庭、放デイの繋がりが希薄。 ・学校との会議開催に2か月かかった。 ○他事業所 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校や強度行動障害のお子さんの受け入れ先がないという声を保護者や現場から聞いた。 ・他事業所のことを知りたい。 ○行政 <ul style="list-style-type: none"> ・市の職員によって返答が違う。（手続きや申請時の書類等、報酬改定の内容の問い合わせなど） ・法改正の内容を身に着けるのに時間がかかる。 ・義務化が増えた（自己評価など）減算にならないようにするためにはどうしたらよいか。 ・加算がからむと手が出しづらい、事務作業が増える。加算をとらず受け入れになってしまっている。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・親が就労しているが児童クラブが見てくれないから放デイへ、というケースが多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材が足りていない。 ・離職率も高いため、やり方が難しい。言葉一つにも気を使っている。他事業所はどのようなことをしているか。 ・人員不足→一人の仕事の負担増→療育の質の低下に繋がっている。 ・新人教育の負担、時間の余裕のなさがあり、事業所だけで人材育成の研修等に取り組むことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害児の移行先 ・社会に出ていくために何をしていくか。スムーズに移行できるように支援したい。 ・支援が過剰になっていないか。 ・地域住民とのつながりが無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○適正利用 <ul style="list-style-type: none"> ・セルフプランの人が増えているが、本人に合っているのかどうか・・・ ・保護者のニーズと本人のニーズのずれ。 ・親御さんに情報が伝わってない。（放デイとはなにか、利用にはどうしたらよいか） ・放デイの敷居が低すぎるのでは？金額等。 ・一度23日支給されるとそのままになる。 ○家族支援 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士のつながり、かかわりの場をどう作っていくか。 ・家庭でのかかわり方等、保護者にもっと伝えられたら・・・ ・預かりが利用目的の保護者も多く、事業所に関心を示さない保護者もいる。 ・保護者の相談先になれていないのではないか。 ・家庭の力が育っていない。 ○不登校児の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・事業所にいる不登校の子について、どこに問い合わせたらよいか分からない。 ・不登校児の受け入れの在り方を考えたい。（何人くらい受け入れているか、送迎範囲、環境調整など安心して過ごしやすいように） ○送迎に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・送迎にかなり人員と時間を割いている。